

3 専門高校等の再編計画について

1 伊万里地区の再編計画

第一次実施計画概要

伊万里商業高校と伊万里農林高校を再編し、総合選択制を導入する。

- ・開校予定年度：平成17年度
- ・設置場所：伊万里商業高校の校地
- ・学校規模：1学年6学級（農業科2学級、商業科4学級）
- ・教育の特色：農業科と商業科の2つの専門学科を併置し、相互に他学科の選択科目を履修できる総合選択制を導入して、幅広い知識や技能を身につけた社会に貢献できる人材の育成を目指す。

検討結果

- 伊万里商業高校と伊万里農林高校を再編し、総合選択制を導入する。
- 開校年度：伊万里農林高校が2学級規模になることが見込まれる平成22年度とする。
- 設置場所：伊万里商業高校の校地
- 学校規模：1学年6学級（農業科2学級、商業科4学級）
- なお、福祉関連の資格取得等も可能となるよう、今後、新たな学科やコースの設置を含めて検討を行うこととする。

理由

- 伊万里地区の中学校卒業生数は今後とも減少する見込みであり、伊万里地区内の3校で、平成16年度から平成22年度までに3学級程度の減が必要となる見込みである。
- このため、伊万里地区でも学校の小規模校化が進み、学校の活力や教育効果の面で様々な課題が生じることから、生徒にとって望ましい教育環境を確保するため、学校規模を適正化し、併せて、教育の質的充実に取り組んでいく必要がある。
- ただし、3学級規模については、学校の取組を重点化するなどの工夫により一定の教育効果が期待され、その教育効果の発現を前提として、3学級を維持できる間は単独校として存続することとする。
- しかし、生徒減少の中で、伊万里農林高校は、平成22年度に、教育環境として課題の多い2学級規模になることが見込まれることから、平成22年度に両校を再編統合し、新高校は、1学年6学級（240人）とし、学科構成は、農業科2学級及び商業科4学級とする。
- 通学面での利便性、教育施設の整備状況などから、校地は伊万里商業高校の校地とする。
- 現計画を基にした新高校の具体像の検討結果において、特色と活力ある学校づくりが可能である。

検討の内容

(1) 伊万里地区の今後の募集学級数の見込みについて

- 今後の中学校卒業生数の見込み、及び平成23年度を目途とした学科構成比の目安から、平成22年度までに伊万里地区で3学級の減となることから、伊万里商業高校4学級、伊万里農林高校2学級、伊万里高校6学級となる見込みである。

	(H16.3 卒)	(H17.3 卒見込)	(H22.3 卒見込)	(H23.3 卒見込)
西部学区	3,099	2,902(-197)	2,768(-331)	2,539(-560)
伊万里地区	832	757(-75)	691(-141)	707(-125)
(3校の学級数)	15	14	12	12

※注①：伊万里地区とは、伊万里市及び西有田町をいう。
 ※注②：H22.3、H23.3の生徒数については、市町村立小学校から私立中学校等への進学見込者数を過去の実績を基に除いた数である。

(2) 新高校の校地について

- 通学面での利便性、教育施設の整備状況の面などから、新高校の校地は、伊万里商業高校校地とする。

(表1：校舎・校地比較表まとめ)

項目	伊万里商業高校の校地	伊万里農林高校の校地
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・伊万里市の中心部にあり、JRとMR（松浦鉄道）の両方が利用可能である。 ・また、バスセンターが近くであり、バス利用者にとっては、各方面からの通学に便利である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伊万里市の西郊に位置し、MR川東駅の利用は可能である。 ・また、JR伊万里駅やバスセンターについては、伊万里商業高校に比べ1kmほど遠くなる。
教室・管理棟など	<ul style="list-style-type: none"> ・農業実習施設、食品化学実習施設の整備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄骨造の実習施設のほとんどは開校後数年以内に改築等が必要である。 ・商業実習施設等の整備が必要である。
農場関係	<ul style="list-style-type: none"> ・校地内に実習圃場の一部、温室等を整備する必要がある。 ・牧場、果樹園等へは、スクールバスで移動する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の農場が活用できる。 ・農場まで徒歩で移動できる。
体育施設	<ul style="list-style-type: none"> ・重層体育館（体育館、武道場）は、平成7年度建築で、鉄筋コンクリート造である。 ・グラウンドは2面確保できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館は、昭和45年建築で、鉄骨造である。 ・グラウンドは1面で、ホッケーなどの練習場所を確保する必要がある。
整備コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の初期投資は必要だが、開校後の改築費等は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期投資は少ないが、開校後の改築費等が多い。

(3) 他の再編組合せの検討

(7) 伊万里高校の2学級を伊万里農林高校に移し、普通科と農業科の併置校とする

(イ) 伊万里高校と伊万里農林高校、又は伊万里商業高校を再編統合する

(ウ) 伊万里地区の3校（伊万里商業高校、伊万里農林高校、伊万里高校）を再編統合する

ことについて検討したが、教育効果等の面から、それぞれに課題が多いと考えられる。

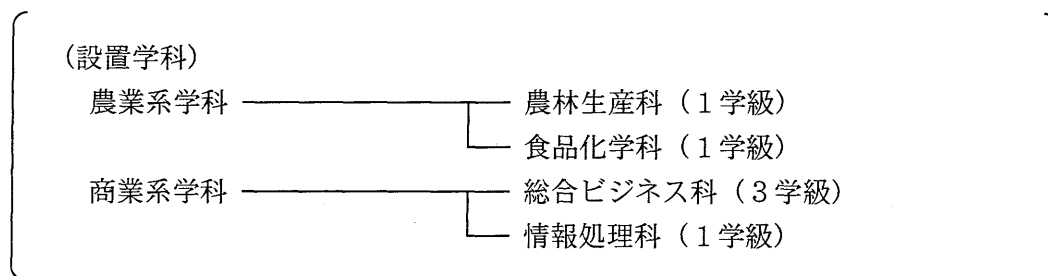
他の再編組合せ案	主な問題点
(7) 伊万里高校の2学級を伊万里農林高校に移し、普通科と農業科の併置校とする	普通科と専門学科の併置となり、進学指導と就職指導の時期が異なるなど、進路指導面での課題は多い。また、6学級規模の伊万里高校から2学級を伊万里農林高校に移すことになるが、伊万里地区の普通科を望む生徒・保護者の希望に沿うものか疑問である。
(イ) 伊万里高校と伊万里農林高校、又は伊万里商業高校を再編統合する	普通科と専門学科の併置となり、進学指導と就職指導の時期が異なるなど、進路指導面での課題は多い。また、統合高校は1学年8学級又は10学級、残りの1校は2学級又は4学級となるなど、適正規模に合致しない高校が出てくる。
(ウ) 伊万里地区3校を再編統合する	全体の学級数が12学級となることを見込まれ、適正規模の8学級を上回ることとなる。

(4) 現計画についての評価

新高校の具体像の概要

第一次実施計画の内容に沿って、新高校整備推進委員会において検討した新高校の具体像は、以下の通りである。

- 農業系学科2学級、商業系学科4学級の併置校とし、総合選択制を導入する。



- 農業科、商業科の内容を融合した教育内容や学校行事を設けることで、流通に精通した農業従事者、原材料について理解のある商業従事者など、視野が広く、地域産業の発展に寄与する人材の育成が期待できる。
- 伊万里商業高校校地に農業科関連施設を設置する必要がある、農業実習棟・温室等の施設・設備について新增築で対応することが必要になる。
 - ・ 食品化学科関連実習施設等については、伊万里商業高校の現有施設の転用や新築で対応することなどが必要になる。
 - ・ また、農業実習棟（農林生産科実習室等）及び温室等については、新築で対応することなどが必要になる。
- 圃場については、伊万里商業高校の校地内に一部を整備することが必要になる。
- 校地内に整備できない実習地については、伊万里農林高校の現実習圃場を活用する必要があることから、生徒移動のため、スクールバス運行等が必要になる。

2 杵島地区の再編計画

第一次実施計画概要

佐賀農業高校と杵島商業高校を再編し、総合選択制を導入する。

- ・開校予定年度：平成19年度
- ・設置場所：佐賀農業高校の校地
- ・学校規模：1学年5学級（農業科3学級、商業科2学級）
- ・教育の特色：農業科と商業科の2つの専門学科を併置し、相互に他学科の選択科目を履修できる総合選択制を導入して、幅広い知識や技能を身につけた社会に貢献できる人材の育成を目指す。

検討結果

- 佐賀農業高校と杵島商業高校を再編し、総合選択制を導入する。
- 開校年度：杵島商業高校が2学級規模になることが見込まれる平成23年度とする。
- 設置場所：佐賀農業高校の校地
- 学校規模：1学年5学級（農業科3学級、商業科2学級）

理由

- 杵島・白石地区の中学校卒業生数は今後とも減少する見込みであり、杵島・白石地区内の3校で、平成16年度から平成23年度までに4学級程度の減が必要となる見込みである。
- このため、杵島・白石地区でも学校の小規模校化が進み、学校の活力や教育効果の面で様々な課題が生じることから、生徒にとって望ましい教育環境を確保するため、学校規模を適正化し、併せて、教育の質的充実に取り組んでいく必要がある。
- ただし、3学級規模については、学校の取組を重点化するなどの工夫により一定の教育効果が期待され、その教育効果の発現を前提として、3学級を維持できる間は単独校として存続することとする。
- しかし、生徒減少の中で、杵島商業高校は、平成23年度に、教育環境として課題の多い2学級規模になることが見込まれることから、平成23年度に両校を再編統合し、新高校は、1学年5学級（200人）とし、学科構成は、農業科3学級及び商業科2学級、校地は、佐賀農業高校の校地とする。
- 現計画を基にした新高校の具体像の検討結果において、特色と活力ある学校づくりが可能である。

検討の内容

(1) 杵島・白石地区の今後の募集学級数の見込みについて

- 今後の中学校卒業生数の見込み、及び平成23年度を目途とした学科構成比の目安から、平成23年度までに杵島地区で4学級の減となることから、佐賀農業高校3学級、杵島商業高校2学級、白石高校4学級となる見込みである。

	(H16.3 卒)	(H17.3 卒見込)		(H23.3 卒見込)
西部学区	3,099	2,902(-197)	➔	2,539(-560)
杵島・白石地区	547	532(-15)		416(-131)
(3校の学級数)	13	12		9
(参) 武雄地区	769	729(-40)		654(-115)

※注：H23.3の生徒数については、市町村立小学校から私立中学校等への進学見込者数を過去の実績を基に除いた数である。

(2) 他の再編組合せの検討

- (7) 佐賀農業高校と杵島商業高校、白石高校の3校を再編統合する
- (イ) 杵島商業高校と白石高校を再編統合する
- (ロ) 佐賀農業高校と白石高校を再編統合する
- (エ) 杵島商業高校と牛津高校を再編統合する

ことについても検討したが、教育効果等の面から、それぞれに課題が多いと考えられる。

他の再編組合せ案	主な問題点
(7) 佐賀農業高校と杵島商業高校、白石高校の3校を再編統合する	全体の学級数が9学級となることが見込まれ、適正規模の8学級を上回ることになる。
(イ) 杵島商業高校と白石高校を再編統合する	普通科と専門学科の併置となり、進学指導と就職指導の時期が異なるなど、進路指導面での課題は多い。また、佐賀農業高校も、今後、小規模化が進む。
(ロ) 佐賀農業高校と白石高校を再編統合する	普通科と専門学科の併置となり、進学指導と就職指導の時期が異なるなど、進路指導面での課題は多い。また、杵島商業高校は、今後2学級規模となり、単独存続が困難となる。
(エ) 杵島商業高校と牛津高校を再編統合する	杵島商業高校の在校生は70%以上が自転車通学であること、また、主に杵島郡内の各町から通学していることから、牛津高校に商業科が移った場合、通学面の負担が増すこととなる。 また、西部学区から中部学区に商業科が移ることから、全県的な商業科の配置の面で課題が多い。

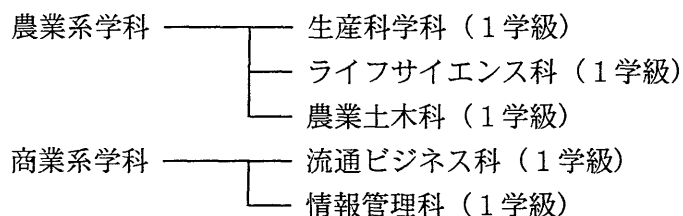
(3) 現計画についての評価

新高校の具体像の概要

第一次実施計画の内容に沿って、新高校整備推進委員会において検討した新高校の具体像は、以下の通りである。

- 農業系学科3学級、商業系学科2学級の併置校とし、総合選択制を導入する。

(設置学科)



- 農業科、商業科の内容を融合した教育内容や学校行事を設けることで、流通に精通した農業従事者、原材料について理解のある商業従事者など、視野の広い生徒の育成が期待できる。
- 佐賀農業高校校地に商業科関連施設を設置する必要があるが、商業実習棟（総合実践室等）については、一部、新築で対応することなどが必要となるが、大方は、現有施設の転用等で対応可能である。

3 佐賀地区の再編計画

第一次実施計画概要

高志館高校と牛津高校を再編し、総合選択制を導入する。

- ・開校予定年度：平成19年度
- ・設置場所：高志館高校の校地
- ・学校規模：1学年5学級（農業科2学級、家庭科3学級）
- ・教育の特色：農業科と家庭科の2つの専門学科を併置し、相互に他学科の選択科目を履修できる総合選択制を導入して、幅広い知識や技能を身につけた社会に貢献できる人材の育成を目指す。

検討結果

- 牛津高校は、当面、1学年家庭科4学級規模により、現校地で単独校として存続する。
- 高志館高校は、学校の取組を重点化するなどの工夫による教育効果の発現を前提として、当面、1学年3学級規模により存続するが、平成23年度までに、農業科は2学級規模となる見込みであり、今後のあり方については、第2次実施計画において更に検討を行うこととする。
- なお、福祉に対する生徒・保護者のニーズを考慮し、今後、佐賀地区において福祉教育の導入について検討する。

理由

- 中学校卒業生数の減少から、中部学区においても、平成16年度から平成23年度までに、全体（10校）で4学級程度の減が必要となる見込みであるが、当面、牛津高校は4学級、高志館高校は3学級を維持する見込みである。
- 家庭科については、最近のアンケート調査の結果において、生徒・保護者のニーズの高まりが確認されており、学科構成比の目標値（3%）を目安として、牛津高校の家庭科については4学級を維持することが可能である。
- 高志館高校の今後のあり方については、中部学区における生徒減の状況や農業科の全体的な配置の在り方を含め、更に検討を行うこととする。

検討の内容

(1) 佐賀地区の今後の募集学級数の見込みについて

- 中部学区の生徒数の推移等から、中部学区では、平成16年度と比較して、平成17年度に2学級の減はあるものの、平成23年度まで全体で4学級減の60学級程度となる見込みであり、当面、牛津高校は4学級、高志館高校は3学級を維持できる見込みである。
- しかしながら、平成23年度の目標となる学科構成比から、農業科については、県全体で9学級、家庭科については、県全体で6学級とする必要があることから、平成23年度までには、牛津高校は現在の家庭科4学級を維持するが、高志館高校は農業科3学級を2学級とする必要がある。

	(H16.3 卒)	(H17.3 卒見込)	(H23.3 卒見込)
中部学区の生徒減の状況	3,461	3,293 (-168)	3,193 (-268)
(中部学区全体の学級数)	64	62 (-2)	60 (-4)
農業科の学級数(県全体)	12	12	9 (-3)
家庭科の学級数(県全体)	7	7	6 (-1)

※注：H23.3の生徒数については、国公立小学校から私立中学校等への進学見込者数を過去の実績を基に除いた数である。

(2) 他の再編組合せの検討

- (7) 牛津高校と小城高校を再編統合する
 - (1) 牛津高校と杵島商業高校を再編統合する
- ことについても検討したが、教育効果等の面から、それぞれに課題が多いと考えられる。

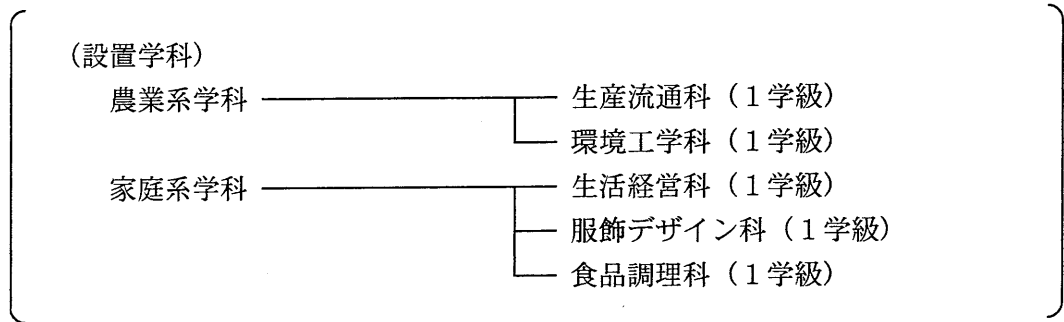
他の再編組合せ案	主な問題点
(7) 牛津高校と小城高校を再編統合する	2校を統合後の学級数が適正規模の8学級を上回る。また、普通科と専門学科の併置となり、進学指導と就職指導の時期が異なるなど、進路指導面での課題は多い。
(1) 牛津高校と杵島商業高校を再編統合する	杵島商業高校の在校生は70%以上が自転車通学であること、また、主に杵島郡内の各町から通学していることから、牛津高校に商業科が移った場合、通学面の負担が増すこととなる。 また、西部学区から中部学区に商業科が移ることになることから、全県的な商業科の配置の面で課題が多い。

(3) 現計画についての評価

新高校の具体像の概要

第一次実施計画の内容に沿って、新高校整備推進委員会において検討した新高校の具体像は、以下の通りである。

- 新高校整備推進委員会における検討では、農業系学科2学級、家庭系学科3学級の併置校とし、総合選択制を導入する。



- 農業科と家庭科の教育内容は、人の基本的な生活に根ざした教育内容であり、共通性が高い。相互に交流を図ることにより、それぞれの教育の充実・発展が期待できる。
- 高志館高校校地に家庭科関連施設を設置する必要があるが、一部施設の増設などが必要となるが、大方は現有施設の転用等で対応可能である。

(4) 福祉教育について

- 平成15年10月に実施した中学生の進路希望等に関するアンケート調査において、「どのような勉強のできる高校があればよいか」との設問に対して、「福祉」を選択した者は、中学生で10.6% (3位)、保護者で23.8% (1位)と高い希望状況にある。

	中学3年生	保護者
普通科	37.9 %	22.1 %
情報	10.9 %	12.5 %
福祉	10.6 %	23.8 %

- 介護等に携わる介護福祉士、訪問介護員 (ホームヘルパー) の資格等については、専門性の重視、高度化等、質の向上が求められている状況にあり、単に資格が取得できればいいという状態から、質の高い資格 (訪問介護員1級、介護福祉士) 取得者を輩出できる専門性の高い専門学科の設置が求められている。
- 現在、福祉の内容を指導している県立高校は普通科高校2校、専門学科高校5校 (農業科2校、家庭科3校)、総合学科高校3校の合計10校あるが、授業時間数の制約 (訪問介護員1級取得には卒業までに最低34単位必要) などから、現状では、訪問介護員2級の取得に止まっており、県内の県立高校では、訪問介護員1級の資格を取得できる状況にはない。
- 一方、「さがゴールドプラン21 (第2期計画)」において示された「居宅サービスの整備目標」、「施設サービスの整備目標」や、「さがチャレンジドプラン」などにおいて、福祉・介護関係の人材の整備目標が示されており、上級学校への進学希望者を含め、福祉関連への進路については将来的にもニーズが期待できる状況にある。

- 高齢者福祉事業 (「さがゴールドプラン21」による)
高齢者福祉に伴う居宅サービスにおける訪問介護員整備の目標
 - ・平成19年度末の目標は2188人(平成13年度末実績の1.49倍)
 - ・施設サービスの整備目標の平均伸び率は1.29倍
- 障害者福祉事業 (佐賀県新障害者プラン「さがチャレンジドプラン」による)
在宅福祉サービスにおけるホームヘルパーの利用時間の目標
 - ・平成19年に163,300時間に設定(平成15年の1.8倍)
 - ・25項目にわたる整備目標の平均伸び率は1.92倍

- こうした中、本県に福祉教育を導入するとした場合、県全域からの通学が可能である佐賀地区が適当と考えられる。

4 定通併置校の設置場所について

定時制・通信制高校においては、現在、勤労青少年だけではなく、進路変更等により転編入学する生徒や社会人など様々な生徒が在籍しており、生徒の学力や学習歴、学習希望等は全日制高等学校の生徒以上に多様化している状況にある。

こうしたことから、これまでのような全日制高校に併置された定時制夜間部や通信制とは異なり、通信制と定時制夜間部、昼間部を併置した定通併置校を設置し、生徒の多様化や高校教育を学ぶ意欲と熱意をもつ生徒の学習希望に、より柔軟に応えることのできるよう、定時制・通信制教育の一層の充実を図る必要があるとした。

しかしながら、今回の検討において、当面は牛津高校が現地で存続するとしたことから、定通併置校については、設置場所を含め、今後、引き続き検討していくこととする。

第一次実施計画概要

鳥栖高校定時制、佐賀商業高校定時制、佐賀北高校通信制を再編し、定時制昼間部を含めた定通併置校を設置する。

- ・開校予定年度：平成21年度（通信制は平成20年度）
- ・設置場所：牛津高校の校地
- ・定時制昼間部：1学年1学級（普通科） 夜間部：1学年1学級（普通科又は商業科）
- 通信制：学級数は定めない（普通科等）。
- ・教育の特色：定時制は、昼間部と夜間部の2部制をとり、生徒が自己の興味・関心、進路希望等に合わせて主体的な科目選択ができる単位制の定通併置校とし、三修制などの柔軟な教育システムを導入する。

検討結果

- 定通併置校の設置場所については、当面、牛津高校が現地存続することに伴い、今後、他の候補地を検討していくこととする。